

会の進め方を議論しては。

意見 発電所を視察して安全ではないことを実感。安全をどのようにみんなが守るか・努力するかをこの会に委ねられたと思う。この会のあり方について方向性を持った討議ができるよう検討しては。

意見 会の進め方を全員で議論するのは大変だと思うので代表で議論してはどうか。

意見 24人が2時間の中で発言は不可能。委員をグループ分けし、前半はグループでの議論、後半はその討論結果を発表する方法はどうか。

A (議長) 会の進め方を議論する場について、事務局で検討し、提案したい。

意見 事業者は役員が責任をとっているのに、保安院長は減俸くらいで責任をとっていない。自治体として国に対してもっと厳しい目を向け、せめて大臣は院長を更迭してもいいのでは。国は監督責任が全然なっていない。

意見 保安院のあり方について議論をしたい。

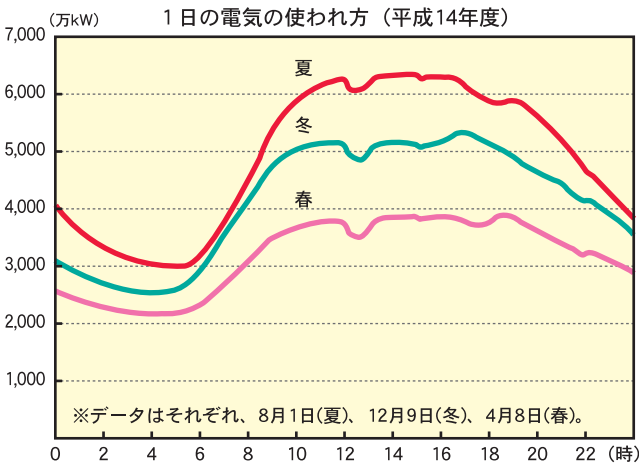
A (議長) 保安検査官事務所長

が出席しているので雰囲気も伝えてもらえると思う。保安院のあり方については別の機会に議論したい。

首都圏の電力供給問題について (東京電力説明)

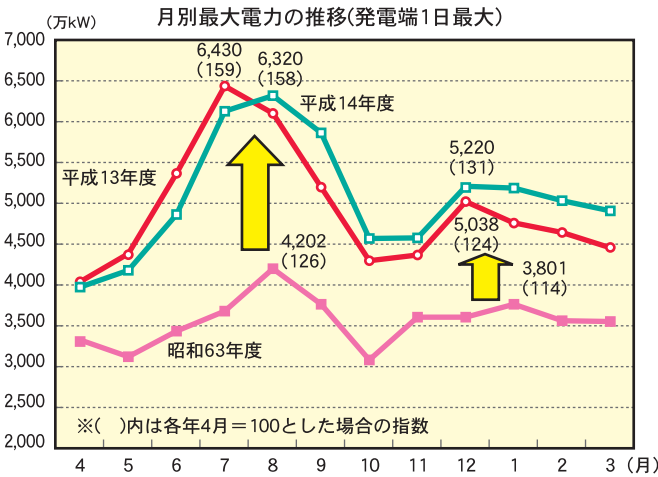
一年で一番多く電気が使われる最大電力(1時間平均値)は夏に発生、63年度は4,202万キロワット、13年度は6,430万キロワットと15年間で2,200万キロワット増加。また、暖房での電気利用の増加で冬場の需要も増加。

原子力発電は1年を通して一



定出力で運転しており、東電では夏の最大時には原子力が4分の一を、年間の発電電力量では44%を担っている。

今後の東電管内の電力需給想定では、現在の6・7号機のみ運転では6月30日以降に供給不足の心配。気温35℃で6,450万キロワットの最大電力を想定、供給力は5,700万キロワットで750万キロワットが不足。不足分のうち、現在検討中の追加供給力として300〜400万キロワット(他電力からの融通、試運転発電所の電力、自家発電電力の買電など)、需給逼迫時に電力抑制の契約分



として100万キロワットを見込んでいるがそれでも足りない。

Q 消費地の関東地方や東京都民から東電へ電力不足の危機感に対する申し入れはあるか。

A (東電) 企業・家庭に様々な機会が説明しているが、切実な質問が出てくる。併せて新潟・福島原子力発電の貢献についても説明している。

Q 既存施設の効率運用の方が得策であり、63年の5割増になるような電力消費拡大が良かったのか、ピークと最低の需要の割合が半分を割るようなことは国民の利益からみおかし。ピーク時に消費を減らす工夫をしてはどうか。これを契機にエネルギーのあり方についてコンセンサスを得ることが求められるのでは。

国会で電力不足は8日間・累計28時間という数字が出ていたが、これでは電力危機からは程遠いのでは。皆さんが過剰設備を抱えているのではないか。

A (東電) 電力不足は8日間程度と見ているが、いつ起こる